

「池モンをさがせ! (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

※この稿は「一瞬の理科」(露木和男先生と共著)に掲載した文章で、「ですます調」で書かれています。

1、「池モン」の宝庫「ライオン池」

私の勤務する小学校には、校庭の隅に壁泉(へきせん)というものがあります。ライオンの口から水が流れているので、子ども達は「ライオン池」と呼んでいます。小さな池ですが、子どもという「人種」は水辺が大好きなので、このエリアは非常に人気のある遊び場になっています。池には意図的に水草(例えばヒシ)が植えられ、ヤゴ、メダカ、オタマジャクシなどがいつのまにか繁殖し、なかなか優秀な観察環境を作っています。いわば「風致された人工池」なのです。



「ライオン池に集まる子どもたち」/C.Tanaka

こんな環境なので、実にたくさんのプランクトンが生息しています。植物性・動物性・その中間のような存在、姿、形、大きさも多種多様で、まさに「池モンスター」(略して「池モン」)の宝庫なのです。これを教材に使わないテはありません。5年生のメダカの成長の単元では、顕微鏡を使ってプランクトンの観察をします。その活動でも子ども達はさまざまな一瞬に出会うチャンスがあります。

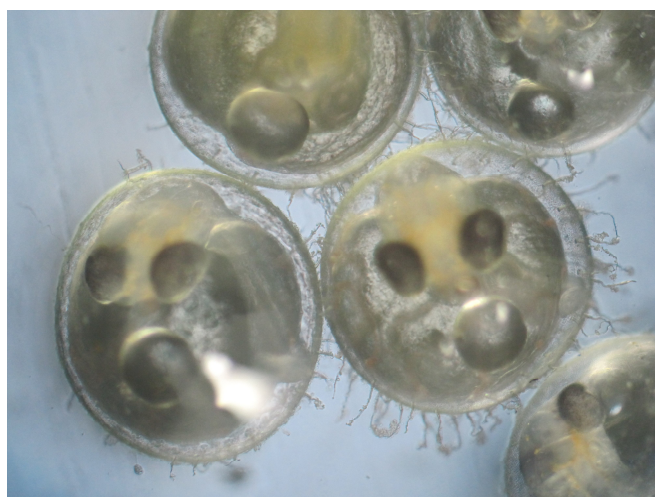
2、LED照明付き顕微鏡というすばらしい機器

顕微鏡という機器は、さまざまな「一瞬」を捕らえる、強力な武器になります。まずどの理科教師でも観

察させるのがメダカの卵でしょう。水草に卵を産ませて、それを観察するのが一番いいのですが、私はメダカの卵専門の研究所から、観察適期の卵を購入しています。その研究所では、「何月何日に、およそこのぐらいの成長過程のメダカの卵を50個欲しい」と注文しておく、ドンピシャで配達してくれます。見事としか言いようがなく、「メダカに授業を合わせる」のではなく「授業に合わせてメダカが来てくれる」という感じです。



私の職場で使っている顕微鏡は、充電式のLED照明付で、ピント合わせや明るさ調整も容易で、安価な割に非常に使いやすい機種です。毎年同じ機種を少しずつ買い足して、現在はほぼ人数分あります。そのLED顕微鏡でメダカの卵を観察すると、もう大変です。



「メダカの卵」 LED照明付の顕微鏡で撮影。

- ・「あ! あー! 目が見える。こっちを見てる!」
- ・「心臓が見えた! 卵の中に心臓がある。ヤバイ!」
- ・「血管が見える。血管の中を玉(血球)が動いてる。」

(つづく)